

### 『ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集』

アーサー・ビナード、木坂涼/編訳 岩波書店 2010

アメリカの詩人（男性 15 人・女性 14 人・読み人知らず 2 人）が書いた詩を、二人の著名な詩人が選び、翻訳しました。笑える詩や、考えさせられる詩…「詩は難しい」と思うかもしれませんが、新せんでユニークで、とっても楽しい！詩に親しみが持てる 1 冊です。



### 『まつりちゃん』

岩瀬成子/作 理論社 2010

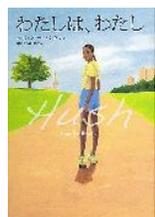
まつりちゃんは、どんなところにでもいた。“まつりちゃん”と出会った人たちは、なんだか心が温くなる。でも、どうして、いつも一人なんだろう？たった一人で住んでいるのだろうか…？物語の展開と共に、謎の 5 歳の少女・まつりちゃんの秘密も明かされていきます。やさしい物語。



### 『ヘヴンリープレイス』

濱野京子/作 猫野べすか/絵 ポプラ社 2010

引っ越してきた街で、和希はある男の子と出会う。和希は彼と共に森の奥の廃屋へ…そこには、それぞれ暮らして悩みを抱えた子どもたち、そして「ローシ」がいた—和希自身も自分の悩みを抱えながら、彼らを助けたいとつよく思います。お金？学力？本当に大切なものは、一体何でしょうか？



### 『わたしは、わたし』

ジャクリン・ウッドソン/作 さくまゆみこ/訳 鈴木出版 2010

ある事件を目撃した父親が証言したため、主人公・トスウィア一家は、安全な暮らしができなくなってしまふ。「証人保護プログラム」により、住む場所も名前も変えて暮らさねばならなくなった悲しみと、それでも前を向いて生きていこうとするひたむきさを描いています。なじみのないアメリカ

カのシステムが関係するお話なので難しめですが、ぜひ挑戦してほしい作品です。



### 『消えた王子』(上) (下)

フランシス・ホジソン・バーネット/作 中村妙子/絵 岩波書店 2010

12 歳のマルコは、今なお内乱の続く祖国・サマヴィアを救うため、厳しい訓練をして、尊敬する父と暮らしていた。ある日、マルコはロンドンの下町で足の不自由な少年・ラットと出会う。お互いに信頼できる関係となったふたりは、サマヴィアのために旅立つのだった—勇やかな 2 人の少年がとってもかっこいい！『秘密の花園』『小公子』などを書いたバーネットによる冒険の旅。



「あまり本をよまないな—」  
そんな人は、感想文の本のほかに もう1さつ  
本をよんでみる、いいかい。  
「本 だ—いすき！」  
そんな人は、1さつでも  
多く本をよむ、いいかい。  
このブックリストでは、  
さいきん出た  
おすすめの本を  
ごしょうかいします。

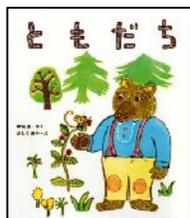
みなさん、夏休みに  
あと“もう1さつ”、  
本をよんでみませんか？  
すてきな本にであえたこと。  
きっと夏休みの  
いい思い出になりますよ！



## 『ごりらのごるちゃん』

神沢利子/作 あべ弘士/絵 ポプラ社 2010

ごりらの りらちゃんに、おとうとが うまれました。おとうとの なまえは ごるちゃんです。りらちゃんは、うれしくて、ごるちゃんと おさんぽに 出かけました—『くまの子ウーフ』の作者による、あたらしい幼年童話です。他に『ごりらのりらちゃん』もあります。



## 『ともだち』

木坂涼/さく さとうあや/絵 偕成社 2010

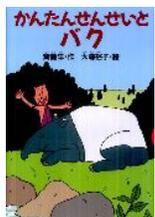
くまの おじいさんと ねずみの ぼうやは「ともだち」です。うんと としが はなれていますが、とても なかよしです。—おしやまなねずみの子と、対等に接してくれる、年老いたくま。あたたかい交流が、詩人によるみずみずしい文章で描かれています。子どもが共感できるような物語です。



## 『ふしぎなのらネコ』

くさのたき/作 つじむらあゆこ/絵 金の星社 2010

さきちゃんの つくえの ひきだしを、いもうとの ななちゃんが かってに あけました。さきちゃんは はらがたって、おもわず ななちゃんを たたいて しまいました。すると、さきちゃんの まえに、ふしぎな のらネコが あられます—自分の気持ちをうまく伝えられない子にすすめる1冊です。



## 『かたんせんせいとバク』

斉藤洋/作 大森裕子/絵 講談社 2011

かたんせんせいは「かたんだよ！」が くちぐせの せんせいです。ある日、バクのムクが せんせいにある そうだんを しました。せんせいは「かたんだよ！」といって、いちばん かんたんな ほうほうから ためして いきます。ムクのそうだんは かいけつするのでしょうか？—ユニークな

ストーリー展開が魅力のシリーズ3作目。



## 『おとうさんの手』

まはら三桃/作 長谷川義史/絵 講談社 2011

かおりの おとうさんは、目が みえません。でも、においや おとで いろいろな ことが わかります。かおりが かえってきたことも、あめが ふってきたのも わかります…だいすきな おとうさんが かおりに いろいろな ことを おしえてくれるのです。



## 『子どものためのコルチャック先生』

井上文勝/著 ポプラ社 2010

「孤児たちの家」の院長をつとめ、子どもとともに生き、学んできたヤヌシュ・コルチャック先生。教育者として、また物語作家として知られるコルチャック先生の生涯を、たくさんの写真とともにわかりやすく紹介しています。



## 『ちいさな飼育員 淡路島ニホンザルのおはなし』

延原早紀/著 講談社 2010

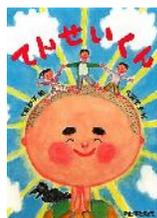
この本の作者である早紀さんは、小学4年生。淡路島モンキーセンターにいる約200頭のサルたちを見分けることができる女の子です。小さいころからいっしょにすごしてきた野生のニホンザルたちとのエピソードを、ユーモアたっぷりの語りと写真で紹介するノンフィクションの本。



## 『イトウくん』

三木卓/作 高島純/絵 福音館書店 2010

イトウ・ヨシオくんは小学2年生。年のはなれたお姉さんとお兄さんがいる、末っ子の男の子です。家族は大人ばかりなので、なかまはネコのナリヒラだけ。おもしろくってときどき切ない、でもくじけないでがんばるイトウくんのお話が6つ入っています。



## 『てんせいくん』

八東澄子/作 大島妙子/絵 新日本出版社 2011

てんせいくんは、お寺の子。おだやかで、とてもやさしい子。ある日、みんなで、てんせいくんの家にある「地獄絵図(じごくえず)」を見に行くことになった。友だちなのに、「ぼく」は、てんせいくんにいじわるをしてしまった。「ぼく」の好きな女の子・ユメちゃんが、てんせいくんのが好きかもしれないのだ…—いろいろな子がいて、それぞれが仲良くすることの楽しさ・大切さを感じられます。



## 『わたしぜんぜんかわいくない』

クロード・K.デュボア/作・絵 小川糸/訳 ポプラ社 2011

いくらかわいいよって言ってくれても、ほかのかわいい子と比べて自分がダメだって思う気持ち…。自分に自信がないのは、見た目のせいかな？このころのせいかな？主人公の考えにそうだねって共感できるはず。読んだ後きっと自分のことを好きになるとおもいます。